

応援、母ちゃん！

—子育てしながら働く母親たち—

「男性の育児休業」

13

たまむら ふみ

玉村 文



はじめにーパパの育休ー

我が家は4歳と2歳の2人の子ども達がいる共働きの世帯です。母親であるわたしはどちらも産後に育児休業を取得し、それぞれ約1年間ずつ産休育休を取得し仕事から離れていました。夫はというと、どちらのときも育休は取得せず、平日は仕事と家庭生活を両立させていました。

日本の育児休業の制度は諸外国と比較して充実していると言われます。一方で、男性の育児休業の取得率の低さは課題としてありました。そのため、育児・介護休業法が改正され、2022年4月から施行されました。その大きな要点は、男性の育児休業取得促進です。今回は、男性の育児休業について考えてみます。

1. 里帰り出産

里帰り出産とは、出産前から出産後の一定期間を、実家に帰って近くの産院等でお産することをいいます。日本では「初めての出産イコール里帰り出産」をイメージすることが多いかもしれません。他の国の事情に詳しいわけではありませんが、女性がメインで育児を担うことが多い、育児や介護等ケアは家族が担うという「伝統的な考え」が根付いていた日本の特徴的な営みだろうとは思いますが。

実際には、里帰り出産を選択した人は全体の半分ほどだそうです。それも年々減少傾向にあるようです。例えば、コロナ禍以前の平成29年「子ども・子育て支援推進調査研究」の「妊産婦に対するメンタルヘルスケアのための保健医療の連携体制に関する調

査研究報告書」では、出産にあたって「里帰りをした」と答えた人は、50.1%、「しなかった」と答えた人は48.8%でした。また、株式会社ベネッセホールディングスが2020年に実施した「たまひよ妊娠・出産白書2021」によると、里帰り出産をしたと回答した人は全体で56.8%、新型コロナウイルスの感染影響で里帰り出産を中止した方も数%いるものの、里帰り出産をしていない方もいることがわかります。

里帰り出産をしない場合、産後の産褥期（母体が回復するまでの期間）に誰がサポートするのでしょうか。そのサポート役割としてはまずパートナーが第一に思い浮かびます。国や地方自治体のサービスを活用するケースもありますが、24時間体制の子育てでは、母親が一人で担うには限界があります。そこで男性の育休の取得が促進されることとなりました。

2. 男性の育休

厚生労働省の実施した「令和3年度雇用均等基本調査」によると、令和3年度の育児休業取得率は、女性が85.1%であるのに対して男性は13.97%でした。前年の令和2年の調査では、12.65%、その前の令和1年度は7.48%でしたので、取得率は年々上昇しているとはいええます。取得率だけでなく、取得期間も確認が必要です。個人差はあるものの産後に母体が回復するまでの期間として1ヶ月程度安静にして過ごす必要があると言われます。その間、パートナーがメインで家事育児を担えるほど、育休取得期間はあるのでしょうか。令和2年度の「雇用均等基本調査」によると、育休を取得した

男性のうち、育休期間が5日未満の割合は28.33%だったようです。まだまだ取得率も取得期間も課題だと思います。

一方で、育休にこだわらずとも仕事を調整したり、年休や特別休暇制度を活用しても良いのです。男性が家事育児を行える時間や期間が確保されていることが重要です。母体の回復というだけではなく、子どもと父親の愛着形成にも役立つことだと思います。

我が家の父親でありわたしの夫は、育休は取得しませんでした。2人目が生まれ入院中は、仕事を調整し上の子の世話と家事を担い、在宅ワークをメインにし残業はせず、産後も家事育児を担おうと調整していました。2人目のときはコロナ禍ということもあって、在宅ワークが推進されたことも後押しになりました。在宅ワークだと通勤時間が必要ないため、保育園の送り迎えもできます。子ども達は父親と朝ごはんを食べ、夜ご飯を食べ、一緒にお風呂に入る1年を過ごすことができました。

3. パパの育休ケース

2023年になり、わたしの周囲では育休を取得する男性たちの姿が見られるようになってきました。同僚達は1ヶ月から3ヶ月ほど取得していました。その他にもママ友のご家庭から、パートナーが1ヶ月の育休を会社で初めて取得したという話を聞きました。法改正が後押しとなっていることは間違いないようです。

里帰り出産の場合、母親が産後すぐに育児がスタートするのに対して、パートナーは親になる時期が遅れてしまうという問題

があります。母親は産院で母親としての指導を受けたり、産後からノンストップの育児がスタートする一方、里帰りからパートナーのいる自宅に戻ってくるまでの間にタイムラグがあるからです。親になるには学習も必要ですし、赤ちゃんと一緒に過ごす経験も必要です。里帰り出産の場合、どうしてもパートナーである男性は父親になる時期が遅れてしまいます。もちろん、母親にとって、里帰り出産をするメリットはあるでしょう。そのメリットを上回るくらい男性の育取得期間とケアの質と量が求められます。2023年にわたしの周囲で複数の男性が育休を取得したケースでは、里帰り出産を選択された方はいませんでした。

おわりに

まだまだ取得率や期間が短いという課題があるとはいえ、身近になってきた男性の育休。

これからのスタンダードになっていく期待も込めて、わたしは応援していきたいなと思っています。これまでは、家事育児をあまりしない(できない)父親への不満話がママ友ネットワークの共通話題になっていたようなところがありました。しかしながら、現代の父親は仕事も子育てもすることがスタンダードになっていくのだらうと思います。その場合、ママ友グループでの共通するパパ話ってどんなものになるのでしょうか。パパもママもよくやっているよね、という褒め合いが共有できるようになるのでしょうか。それとも新たな論争が生まれるのでしょうか。